

金沢市立押野小学校

[はじめに]

本校は、金沢市の西南部地区にあり、野々市市と隣接している。今年度、創立 140 年を迎え、全校児童数は 554 名、教職員は、30 名である。

学校のすぐそばには JR 北陸線が通り、その沿線沿いに工場、住宅が建ち並ぶ校区である。校区の歴史を紐解くと農業・酪農を中心とした町から昭和 40 年頃を境に急速に田畑が埋め立てられ、住宅が次々と建てられてきた。多くの人の思いが交錯する中で、今の校区が形づくられている。

今年度、ユネスコスクールの認定を受けて 4 年目、地域や地域に暮らす人々、共に学ぶ仲間、自分たちの生活を取り巻く人々とのかかわりを主要テーマとして、総合的な学習の時間を中心とした持続発展教育の実践に取り組んでいる。

つながろう！地域と人と

～地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりを通して～

1 ユネスコスクールとしての取組

「つながろう！地域と人と」を主要テーマに設定し、「地域・文化・伝統」「自然・環境」「福祉・健康、人・自分」を小テーマとして学習をすすめてきた。地域を中心とした中学年での学習を受け、より広い視野で学ぶ高学年へと学びのつながりを意識し、「ひと・もの・こと」とのかかわりを構築できるよう取り組んできた。以下、取組の中心となったものを記述する。

① 「地域・文化・伝統」にかかわって

ア 押野校区の様子、昔の遊び、校区に伝わる昔話や踊り、金沢の歴史や伝統工芸について調べ、金沢のよさに気づき、よりよい町づくりについて考える。(3・4 年)

3・4 年生では、校区に伝わる「押野じょんから」を地域の方に教わり、運動会で披露した。体育科との関連を図り、地域に伝わる踊りである「押野じょんから」を運動会での団体演技に取り入れた。振り付けの意味等、自分たちの考えを地域の先生方と交流することを通して、地域の歴史、よさ、人とのかかわりについて考えることができた。その際、昨年度学んだ 4 年生と共に学ぶ場を設定し、学びのつながりをつくり出すことができた。

4 年生は、金沢金箔について体験活動を通してそのよさについて自分なりにまとめることができた。

イ 校区に対する関心を高めると共に、市や県の文化や伝統について調べ、郷土を愛する心情を育てると共に郷土に対する誇りをもつ。(3・6 年)

3 年生での和菓子づくりや和菓子に携わる職人との出会い、6 年生は、加賀友禅作家やのりおき職人さんと出会い、作成する中で、つくる喜びと奥深さを実感することができた。そして、金沢を見つめ直し、金沢のよさを一人一人自分なりに捉えることができた。

特に 6 年生では、加賀伝統工芸師を招き、教を請いながら、最初から、図案、下絵、糊置、彩色、中埋、地染、水洗、仕上げまでの、蒸し以外は全て子ども自身が行った。そのことから、つくる難しさや奥深さを知ると同時に、つくる楽しさや友禅のすばらしさを実感することができた。また、作家やのりおき職人からの話を聞く中で、苦労や仕事に対する姿勢など、これから生きる上での人生観も学ぶことができた。そのことから、金沢のよさを再発見することができたこと、そして、自分を見つめ直しこれから生きる上での指針を学ぶことができた。



ウ、「自然・環境」にかかわって

5年生では、春から続けてきた米づくりの体験活動、社会科における「庄内平野の米づくり」の学習を通して農家の人々の苦労や工夫を学んだ。また、米だけでなく、加賀野菜についても調べ、加賀に伝わる野菜を知るだけでなく、米づくりを教えてくれた地域の人だけでなく、加賀野菜でもそこに取り組む農家の人の苦労やよさを知ることができた。その活動から、作物作りを通して金沢のよさを再発見した。



② 「福祉・健康，国際理解，人・自分」にかかわって

障がいのある人たちのことを調べ、人と人が共に生きるための工夫を考える。また、積極的に人と交流し、そのよさを感じとりながら、人とのつながりを大切にする意識を高め、1/2 成人式，卒業に向けた取組などを通して、これまでの自分を振り返ると共にこれからの生き方について考える。(4・6年)

4年生では、国語科の学習とリンクさせ、障がいのある方との交流によって、共に生きる価値について考えを広げることができた。また、1月末に保護者，地域の方々を招き、1/2 成人式を行った。自分の過去，今について人とのかかわりをもとに調べ、自分自身を振り返ることができた。また、10年後の自分や夢について思いを巡らせ、想像することを通してこれからの自分のあり方について考えた。ここでは、相手意識を持ち、スピーチ原稿をつくり練習したり、衣装を用意するなどどうすれば相手に自分の思いが伝わるか考えたりすることができた。また、成人式を開催するために、プログラム作成や場の設定など自分たちで企画し運営する経験をするすることができた。その中で、仲間とのつながりの価値を見出すことができた。



6年生では、卒業に向けて取組をすすめる中で、自らの成長を支えてくれた人々とのかかわりを見つめ、これからの生き方を再考するきっかけをつくることができた。

これらを通し、共に学ぶ仲間の思いを知り、共に夢に向かって成長する仲間としてのつながりを強くすることができたと考える。加えて、今の自分の存在をこれまでの成長とつなげて考える子の育ちが見られた。

2 成果と課題

① 成果

- ・人や地域とのかかわりから学ぶことで、「ホンモノ」の体験ができたと考えている。職人さんや農家の人など、本物から学ぶことができ、新しい人を見つけ学んだことは大きな成果となった。また、多様な立場、多様な世代の方々とつながりをもつことができた。
- ・目的意識，相手意識をもった取組によって、気持ちや考えを表現する能力の向上の一助とすることができた。
- ・「ひと・もの・こと」とのかかわりの構築を視点に、学校の教育活動全般にわたって方向性を定め取組をすすめることができた。
- ・金沢を中心に金沢学びタイムと関連づけて学習することができた。
- ・調べて発表して終わりではなく、調べ考えたことがどうなのかを実際に出かけ、検証し、考察することができた。
- ・通常の授業時間（総合的な学習の時間）を用いて、これまで行ってきた校内カリキュラムに重ね合わせる形でプログラムに盛り込んだ。また、教科等と関連性が高い内容については（先述の「押野じょんから」「金沢箔」など）各教科と総合的な学習の時間を横断する形でカリキュラムを編成して取組をすすめることができた。

② 課題

- ・校内の他学年や地域の方との交流を計画的に実施して、学びが高まるスパイラルが実現できるようにしていきたい。そのために、児童の主体的な学びが実現されるような教育課程の見直しや地域の人材活用を充実させていきたい。
- ・児童が学び得たことが「どのような価値があるのか」「新たに創造された行動がどう社会や自身の生き方につながるのか」についての評価のあり方を実践を通して明確にする必要がある。
- ・総合的な学習の時間の学びを一度整理したが、もっと、4年間で育てる資質・能力を洗い出し、そのために何をしていくのか、つながりはどうなのかを一度ゆっくりと考える必要があろう。